

ご挨拶

副代表：岩村和彦

山のトイレを考える会も4年目を迎えました。これまでの成果については皆様の判断を仰ぎたいと思いますが、会発足以来の様々な活動を通じて少なくとも山のトイレ問題が広く認識され、また問題解決に向けて徐々にではありますが動きが続いているのは喜ばしい限りです。使用済みの紙持ち帰りは定着しつつありますが、一方では山中のキャンプ指定地周辺の残置や裸地化、糞尿による水質汚染や生態系への影響など課題は山積んでいます。短期、中長期的視点に立った活動を根気よく続けることが何より必要なことでしょう。

「北海道を山をいつまでも楽しむ為に」「次世代へ素晴らしい北海道の山を引き継ぐ為に」今後共、皆様のご協力ご支援を宜しく御願ひ申し上げます。

活動報告

1. 第4回フォーラムの開催(2003.2.1)

第4回山のトイレを考えるフォーラムが札幌市生涯学習センター「ちえりあ」で開催され、80名を超える参加者を迎えて行われました。初めにNPO法人「富士山クラブ」事務局長の渡辺豊博氏の基調講演。渡辺氏は富士山クラブを中心に市民・NPO・企業・行政がパートナーシップを組んで活動してきたこと、富士山頂バイオトイレ等について貴重なお話をされました。パネルディスカッションでは、利尻富士町の須間豊氏から利尻山の携帯トイレ推進の苦労話、北海道庁の荒井修二氏からは携帯トイレ無料配布、バイオトイレやトイレブース設置などの実施状況、新得山岳会の小西則幸氏からはトムラウシ南沼や沼ノ原等のトイレ問題解決に向けた提案、さらに岩手大学の広田純一氏からはROSとその手法を使い大雪山国立公園を具体的にシミュレーションした興味ある研究内容について説明がありました。その後、ディスカッションに移り、問題解決に向け熱い議論が交わされました。

(注)ROS：利用体験多様性計画

3. 山のトイレマップの更新(2003.6)

トイレマップ(大雪・十勝編)と北海道の登山口トイレ情報を最新の内容に見直し、2003年版として作成しました。マップと登山口トイレ情報には、「バイオトイレ情報」「携帯トイレブース情報」「携帯トイレ回収ボックス」等の最新情報を追加し、内容の充実を図りました。

これらは、山のトイレデー、各地の山開き、各種イベント等で配布しました。まだ、予備がありますので希望される方は事務局までお問い合わせください。



トイレマップと登山口トイレ情報

4. 2003山のトイレデー実施(2003.9.7)

今回で3回目となる全道一斉山のトイレデーを多くのみなさんのご協力で実施することができました。

全道の登山口でスカイブルーの爽やかな幟を立て、山のトイレマップ配布、登山者への啓発、アンケート調査、テッシュやゴミを拾う清掃登山を行いました。

9月7日以外の日にも自主的に活動してくれる人もいて、全部で38箇所、延参加者は108名となりました。また、アンケートは全道版が約750枚、美瑛富士避難小屋のトイレ問題に関するものが、約30枚を収集できました。これらのアンケートの分析結果については来年の2月に開催する活動報告集会で報告する予定です。

2. 全国の山岳ツアー会社へお願い文発送(2003.5.7)

夏の登山シーズンには北海道の山に多くの登山者が訪れます。特に日本百名山には登山者が集中します。

当会では、北海道の山のトイレの状況やトイレマナーをツアーを主催する会社に周知し、参加する登山者への啓発や指導をしていただくこと、全国の山岳ツアー会社58社に「お願い文」を送付しました。この施策の成果はまだ具体的に把握するまでに至っていませんが、来年に向け、さらに効果的な施策を検討し実施していきたいと考えています。



熱い議論が交わされたパネルディスカッション



パネル展でもトイレ問題の深刻さを訴えた



羊蹄隊(真狩登山口にて)



楽古岳隊(山頂にて)



利尻山隊(峯形コース登山口にて)

5. 美瑛富士避難小屋トイレ問題について 意見交換 (2003.5)



美瑛富士避難小屋
にはトイレが無い

美瑛富士の避難小屋は1996年に新しく建替えられましたが、トイレがありません。そのために小屋付近は糞尿とテッシュで汚れており、目を覆うばかりの状態です。

美瑛富士避難小屋は、人気のオプタテシケ山への登山ルートにあり、十勝連峰と大雪山を繋ぐ中継地点でもあることから、多くの登山者が利用しています。当会では、話し合いを重ねた結果、トイレ設置に向け活動を進めることにし、さっそく関係団体との意見交換を実施しました。

(5月26日)横須賀代表を含む4名で上川支庁地域政策部と北海道森林管理局旭川分局の2箇所を訪問
(6月24日)会員2名が美瑛町商工観光課を訪問



美瑛富士避難小屋の周りに
散乱したテッシュを拾う

現在の避難小屋は美瑛町が林野庁から土地を無償で借用して建てた。上川支庁と森林管理局の考えはトイレを設置する主体は美瑛町。美瑛町は、トイレ設置をしたいが財政が逼迫し、予算措置が困難。また維持管理も問題であると言うことでした。

トイレ痕をホームページにアップ

山のトイレ問題の実態について多くの方々に知っていただくため、当会のホームページに山に残地したウンコやテッシュ跡の写真を掲載しています。また、登山口や山中でのトイレの写真も載せています。まだまだ写真は少ないですが、これからも徐々にアップしていきたいと思っておりますので、写真提供にご協力ください。



浜益の黄金山登山口に立派なトイレ
ができた。



日高の国境稜線にもトイレ痕が
ができた。

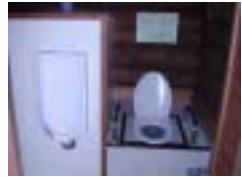
黒岳石室にバイオトイレ設置 (2003.9)

9月、上川支庁では、黒岳石室のトイレを「おがくず式バイオトイレ」にしました。電源はソーラーと風力とのハイブリット方式。トイレは4室、男女共用です。また、おがくずは自転車漕ぎの人力で攪拌する方式となっています。

黒岳石室の標高は約1900m、北海道の厳しい山岳環境の中で、このバイオトイレがトラブルがなく稼働するかが試されることとなります。期待したいですね。



黒岳石室のバイオトイレ



バイオトイレの中。
これが4基ある。

携帯トイレ販売店

全道の携帯トイレ販売店を当会のホームページに掲載しました。札幌の秀岳荘と石井スポーツでは、通販でも購入できますので、必要な方は電話で問い合わせてみてください。

- ・秀岳荘札幌本店 TEL: 011-726-1235
- ・石井スポーツ札幌店 TEL: 011-222-3535

携帯トイレブースと回収ボックス

北海道の山にも携帯トイレブースと回収ボックスが多くなりました。携帯トイレ使用者はまだ少ないのが現状ですが、携帯トイレを利用する人にとって朗報です。

携帯トイレは「自宅まで持ち帰って処分する」のが基本ですが、特に本州からの登山者は持ち帰ることが困難なため、回収ボックスは貴重です。使用済携帯トイレの処分も含め、これらは地元市町村及び関係機関のご努力の結果です。私たち登山者は感謝し、できるだけ地元のみなさんに負担をかけない様、マナーを守って利用したいものです。



携帯トイレ回収ボックス



トムラウシ南沼の携帯トイレブース

山のトイレを考える会活動報告集会 2004年2月7日(土)

多数の参加をお待ちしています!

場所: 札幌コンベンションセンター「206会議室」
(札幌市白石区東札幌6条1丁目)
TEL: 011-817-1010 (代表)

時間: 午後2時(開演)~午後5時

内容: 山小屋のトイレから考える山のトイレ問題

(スピーカー予定者)

- 美瑛山岳会 内藤事務局長
- 平取山岳会 石森会長
- 白雲避難小屋管理人
- 万計山荘友の会 小笠原氏
- 後志支庁 小室氏
- 北海道自然環境課 荒井氏



利尻山の携帯トイレブース

連絡先

事務局長の愛甲がアメリカ留学のため12月末まで不在です。帰国まで上井博志が臨時事務局として担当していますのでよろしくお願いいたします。(上井の電話は、011-726-6510 メールは kamii@terra.dti.ne.jp)

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究科園芸緑地学講座内
山のトイレを考える会事務局(担当: 愛甲哲也)

電話 & FAX 011-706-2452 電子メール: hokkaido_yama_toilet@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.yamatoilet.com>